

2 - 6 嶺岡地殻活動観測井による地震観測

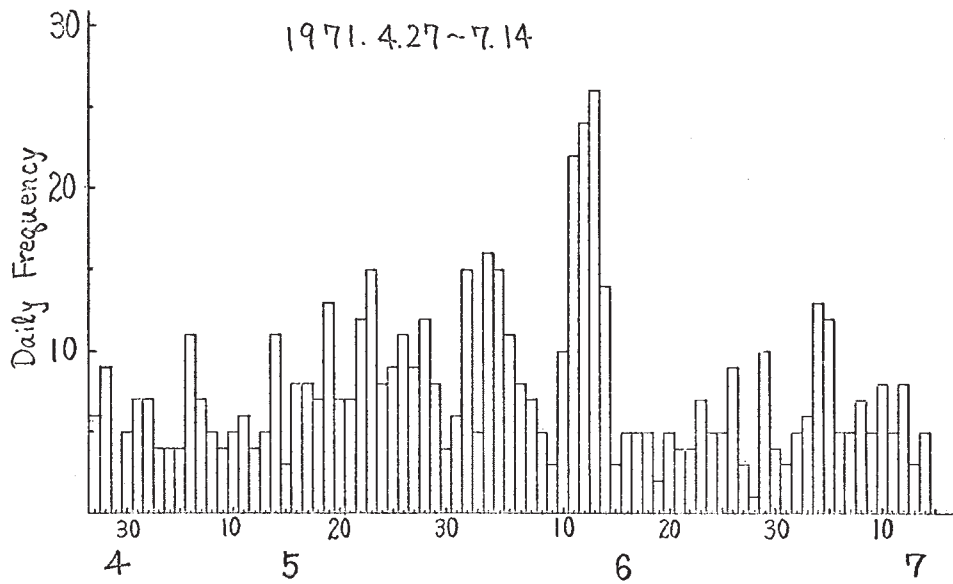
Observations by Mineoka Crustal Activity

Observation Well

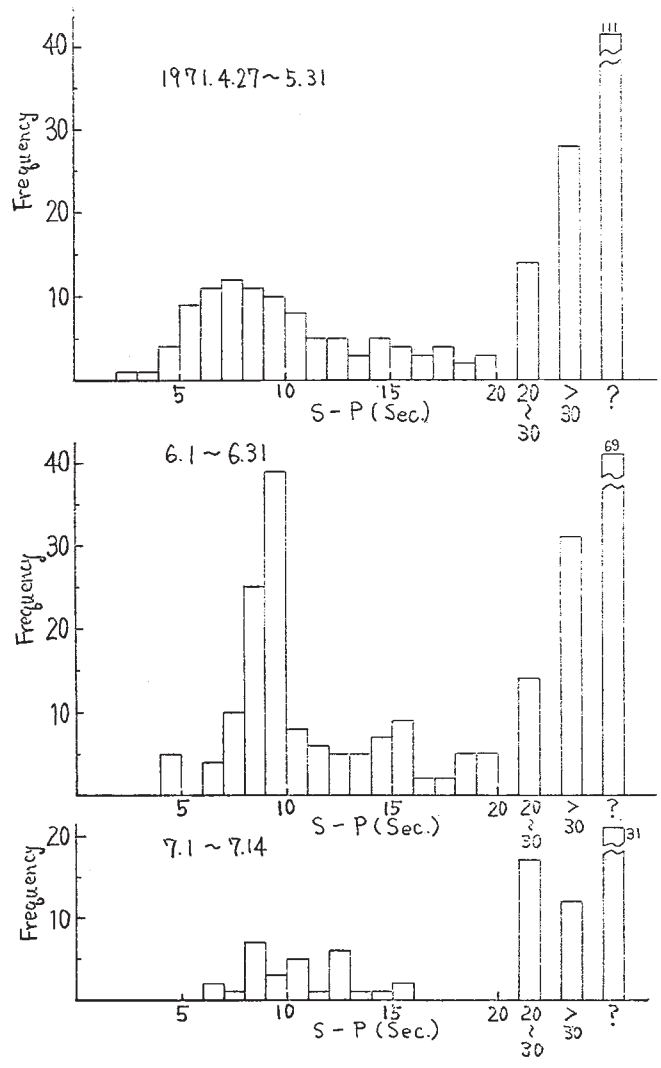
防災センター

National Reserch Center for
Disaster Prevention

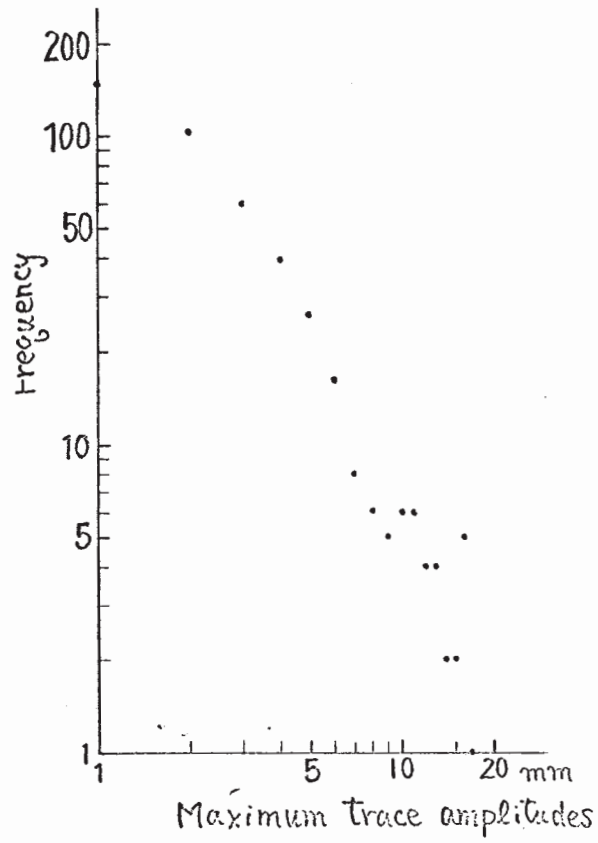
嶺岡における微小地震観測は本年度に入ってから開始された。観測地点は房総半島で最高の愛宕山(405m)の麓、県立嶺岡乳牛試験場構内で、地層は房総でもっとも古く、先第三紀層かと言われている嶺岡層群である。岩質は堅い砂岩と泥岩の互層で、破碎されており、泥岩において特に著しい。地震計は3成分固有周期1Hzのものを深度約47mの孔底に設置してある。方位は水平成分のひとつを真北に設置してあり、孔芯傾斜は1°である。平常はスス書きに記録計により水平と上下各1成分で観測している。倍率は10Hzで13万倍である。今日までの観測結果を示す。S - P9 ~ 10sec位のもは勝浦附近で発生した地震である。5月下旬には木更津と清澄の中間程で地震が観測された。 (高橋 博)



第1図 嶺岡における日別地震回数 倍率約13万倍(10Hz)
 Fig. 1 Daily frequency of earthquakes at Mineoka, Magnification 160,000 (10Hz)



第2図 嶺岡におけるS-P時間頻度分布図
 Fig.2 S-P time distribution at Mineoka



第3図 嶺岡における最大記録振幅と回数の関係

Fig. 3 Relation between the earthquake frequency and the maximum trace amplitude at Mineoka